

発行 医療法人慈生会広報委員会 鹿児島県枕崎市白沢北町 191 番地 TEL (0993) 72-0055



## 新年明けましておめでとうございます

新年ご挨拶 —第二次長期経営計画に向けて—

法人管理部長 西元晃

新しい年を迎えました。旧年中はお世話になりありがとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。地域の皆様方、患者様、職員の方々へ改めて御礼申し上げます。

一連の医療構造改革は着々と進行しています。昨年は厳しい内容となった診療報酬の改訂が4月に実施されました。6月には第五次医療法改正が成立し、10月には障害者自立支援法が成立するなど、ウエルフェア九州病院を中核とする医療法人慈生会グループにとっても軽からず影響がありました。慈生会グループが提供する医療・福祉サービスの提供のあり方を一部見直すなどして対応して参りました。その過程で患者様には一部ご迷惑をおかけしたこともあったかと思えます。これらの改変に伴う業務の見直しで、より効率的かつ良質なサービス提供に関して改善できたのではないかと的一定の評価も頂きました。

平成8年2月に旧枕崎厚生病院からウエルフェア九州病院として当地に生まれ変わり、3月には12年目を迎えようとしています。この11年間は「ストレス社会と高齢社会への対応」を合言葉に邁進してまいりました。これらの長期経営計画の骨格に沿って、ストレス病棟や重度認知症専門病棟を設置するなど、在宅分野を含め幅広く対応してまいりました。今では病院以外に7つの事業所が開設されています。この4月には、枕崎市の委託を受け、「地域活動支援センター」などもオープンする運びとなっています。これらの11年間の活動を第一次長期経営計画の完了と位置付け、現在、新たな長期経営計画を策定中です。10~15年先を想定し、地域における慈生会グループの第二次長期経営計画の策定作業中です。3月には理事長より発表される予定となっています。地域住民の健康維持管理に努め、患者様の健康回復を目指し、職員の幸福を追求するために、次の目標を明確にしたいと考えています。地域あつての慈生会グループであることを、肝に銘じ、より公益性の高い組織として、医療・福祉の供給主体としての充実を図ってまいります。社会の変化に対応できるよう、さらなるサービスの質向上に努力していく所存でございますので、地域の方々、患者様、家族の皆様、そして全職員の一層のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

### 医療法人慈生会 経営理念

- 患者様の健康回復に努め、もって患者様の生活安定と幸福に貢献すること
- 地域住民の健康維持管理に努め、もって地域社会の発展に貢献すること
- 職員の生活向上と幸福をはかること

## ☆コスモス会の報告☆



11月11日に「認知症の症状と対応について」というテーマで第9回目となりますコスモス会を行いました。認知症症状である、徘徊、せん妄、妄想、異常行動、暴力行動を「認知症の人の介護」というビデオを観ながら、工藤医師より対応方法を講演していただきました。ご家族の皆様からは、在宅ではどんな介護の仕方があるのか、またどんなことに困っているのかなどを、思いおもいに話していただきました。私どもも、ご家族様がこれまで行ってきた介護の体験談や、困ったことを聞くことによって改めて在宅での介護の大変さに気づかされ、当法人でお手伝いできる事がありましたら、させていただきたく思っております。ご家族様の感想からは、「他の人も同じような苦労を経験されているのがわかって心が和んだ」「他の方の対応を聞くことが出来て参考になった」など、それぞれのご家族様の心に残るなにかがあったようでした。普段思ってもなかなか話すことの出来ない不安なことや心配に思っていること、今後のことなども語り合うことができ、とてもいい機会になったと思います。今回ご都合により参加できなかったご家族様も、まだ参加したことのないご家族様も、次回には是非お気軽にご参加下さい。次回は5月の19日(土曜日)の予定です。 家族会実行委員会



## ☆すずらん会のご案内☆



**目的** ご家族の皆様方と、病気や障害について共に学びあい、そして語り合うことです

**日時** 平成19年3月10日(土) 午後1時30分～3時30分

**場所** ウェルフェア九州病院 作業療法室(1階)

**内容** 講演

講師 : 中島 泰廣 医師

[ ウェルフェア九州病院 教育研修担当副院長 ]

テーマ : 関わり方のポイント

～精神障害者と家族の関係をより良くする為に～

座談会

日頃、家族の方々が患者様と接している中で、感じていることや分からないこと、困っていることなどをお互いに語り合う場です。

**対象者** 当院通院もしくは入院中の精神障害者をかかえるご家族様

※ 参加を希望される方は、**2月23日**までに、お電話にてご連絡ください。

お問合せ先 ウェルフェア九州病院 家族会実行委員会

電話番号 : 0993 (72) 0055

担当 : [ 地域総合支援センター ] 栄村、榊、打越

# 院内バザー



11月28日に、院内バザーを行ないました。デイ・ケアあおぞら、みどり、めぐみ、うみがめ、レスティア病棟のメンバーの方たちと並んで、お店を出しました。それぞれが得意な事を生かし、クリスマス用品・お正月用品・編み物等の手作り商品を出しました。あおぞらは、喫茶店も行き、事前にケーキやクッキー、ふくれ菓子を作り、売り出しました。外来の方や病棟の方、スタッフの方、家族など、沢山のお客様が来て、大盛況でした。売り込みが以前に比べ、とても上手になったと褒められ、みんな喜んでいました。



買い物に来てくださった皆様、ありがとうございました。次回もよろしくお願ひ致します。



## 初詣

1月13日に、デイ・ケアあおぞらのメンバーで、知覧町の豊玉姫神社に毎年恒例の初詣に行ってきました。参拝を済ませると、おみくじを引き、メンバーみんなで見せ合いです。熱心に読んでいました。

その後、知覧町のそば茶屋でそばを食べました。たくさんあるメニューの中から、自分が食べたい物をじっくりと考えたはずなのに、他の人が食べているのを見ると、全てがおいしく見えてしまいます。みんなで、わいわいと言いながら、にぎやかに食べました。帰りにお土産屋で、それぞれ自宅にお土産を買って帰りました。

少し肌寒い一日でしたが、とても楽しく過ごせました。今年一年、みんな健康に過ごせますように。



うみがめ病棟では、1月18日に豊玉姫神社に初詣に行ってきました。

めぐみ病棟では、1月17日に開聞町の枚聞神社に行っていました。今年は曇っていましたが、雨が降ることなくバスから降りて参拝することが出来ました。寒い中ではありましたが、おみくじを引いたりと楽しみました。今年もよい年でありますように。



## アメリカ旅行一家族をたずねて

中島 泰廣

平成 18 年 12 月 18 日からアメリカへ出かけた。鹿児島から中部国際空港、アメリカ Michigan 州 Detroit まで、7,000mile (約 10,000km) を 11 時間 30 分で飛び、Detroit で飛行機を乗り換え、30 分で Ohio 州 Toledo 市へ辿り着いた。この地は、1974 年 8 月から 1977 年 5 月まで、約 3 年間、私が隣臓外科の研修のため留学していた所で、私には思い出深い土地である。

娘は当地で大学を卒業して結婚し、4 人の子供がいる。久しぶりに会う孫達は、ちょっと恥ずかしげで緊張気味である。一番上の孫は小 6 であるが、背丈が前回逢った時よりもぐっと伸びて、家内を追い越して、小生の耳の高さまで伸びている。2 番目、3 番目も男の子で、4 番目が待望の女の子である。生後 1 年余りであるが片言で話し愛らしく笑う。その可愛さが堪らない。

Toledo 市は、その昔、鉄道交通の要衝であり、ガラス工業と Toledo-Scale で有名であった。その後、自動車や飛行機などの交通機関の発達に伴い、鉄道交通の要衝としての街の機能は衰退し、Detroit が自動車工業の中心として発達するに伴い、自動車のガラス、計器産業の街として、発展してきた。然し、久しぶりに訪れた Toledo は、今ひとつ昔の活気が無い感じがする。今年、アメリカの自動車産業はトヨタ以外は、軒並み赤字との事、この街の活気の無さも納得で出来る。この地で 18 日、19 日、20 日と過ごす。

12 月 21 日に Colorado 州 Denver の知人宅へ飛ぶ予定であったが、Denver 空港が猛吹雪のため閉鎖され、旅行客が 5 千人あまり空港に閉じ込められているとの事で、急遽予定を変更して、Detroit 経由で、息子一家の待つ Minneapolis-St.Paul へ飛ぶ事になった。冬のアメリカ旅行は天候異変が怖いから避けた方が賢明と、常づね米国の友人から言われていた事が現実となり、大いに慌てた。21 日、Toledo から Detroit へ飛ぶ。Toledo も Detroit も、何時もの年であれば積雪の時期であるのに、寒い雪は無い。南の Denver が猛吹雪なんて想像もつかない。飛行機は定刻に出て、定刻に着いたが、駐機場が決められた場所とは違って、walking-bridge が接続できず、到着地点をめぐって、機長と Supervisor とのマイクでの言い合いが 1 時



間近く続きなかなか降ろしてくれない。乗り換え便の出発時刻が迫っているのに気が気でない。遂に乗客の booing に押し切られて、飛行機から地上へタラップが降ろされる。タラップを降りてまたタラップを昇り Concourse C に入る。この飛行場は、モーター車が走り、電気自動車でビル内を移動しなければならない程広く、乗り換えの便の出発 Gate 72A まで、トランクを引っ張って移動するのである。Concourse C を走り階段を上り又階段を下りて、Concourse B に入り、ひたすらに走り、更に階段を昇って Concourse A に走りこむ。中年の白人女性が走りより “May I help you?” と言ひ、時間が無いのでとにかく急げと言ひ。血相を変え、ひた走りに 3 つの Concourse を駆け抜ける。「アメリカ人の馬鹿」と叫びたい気分が走る。こんなに走ったのは、高校卒業以来 50 数年ぶりであった。幸い、Denver の snowstorm の所為で各地からの便も定刻には着かず、乗り換え便は我々を待っていてくれた。最後の塔乗客として乗り込んだ。席についても心臓の動悸は治まらず、何剤かの薬を飲んでやっと生き返る。2 時間の空の旅をして Minneapolis St.Paul 空港へ着いた。手を振りながら “Hei Gran`Pa”、 “Hei Gran`Ma” と笑顔で駆け寄る孫の Michael が我々夫婦夫々に抱きつき、kiss をしてくれた。とても幸せで、涙が出るほど嬉しかった。又息子夫婦も優しい笑顔で我々夫婦をむかえてくれた一懐かしい息子一家との再会である。Michael は 7 歳で小 1、1 年以上見ない間に大きくなり、可愛くて覚えど度度も抱き上げていた。おかげで未だに腰痛が続いている。息子はこの土地の州立大学を卒業して、英国系の IT 企業に上級 Analyst として勤務している。丁度、Christmas





Vacation で息子もずうっと在宅していて、久しぶりに長い時間を息子と過ごす事ができて父親と息子、男同士で越し方行く末の事など存分に話し合えたことは、今回の旅行の最大の喜びであった。

12月24日、Christmas Eveの買い物客でごった返す“Mall of America”へ出かけた。開業した時にはMinnesota州の人が皆集まったと言う超巨大 shopping center である。買い物客で活気あふれる光景を見ると、「イラク戦争はどこで?」と言う感じがするが、嫁に聞くと、この街でもイラク戦争の悲しい話が沢山あるとの事である。この州は寒さの厳しい事ではアメリカでも有名で、北欧からの移民が圧倒的に多い州である。昔から牧畜と農業で豊かな州となり、近年は、それに加えてIT企業を多く誘致して「食品産業」と「IT企業」の州として発展し、経済事情がいいとの事である。Detroit や Toledo とは全く異なった活気を感じる。

Christmas には嫁の Dawn が張り切って Christmas Dinner を用意してくれた。通常、Thanks-Giving Day や Christmas には、turkey (七面鳥) を食べる慣わしであるが、七面鳥は大き過ぎて、一度調理すると、その後1週間位食べ続ける羽目になるので、最近では、特殊な目出度い鶏“Cornish Game Hen”を料理する人達が多いと言う事である。鶏の内臓を抜いた後に色々な野菜、香草、果実を詰めて、oven で焼く。一種独特な味で美味しい。日本人である私達のために、ご飯と味噌汁が添えられているのが嬉しい。白ワインで乾杯した。例年なら積雪の時期なのに、この地でも雪が降らず、white-Christmas とはいかず、天候異変が起こっているのではないかと思わずにはいられない。夜、息子たちと自動車で近隣の

Christmas-Illumination を見て回った。宗教的な飾り付けが多く、各家族の創意工夫が凝らされた Illumination は、美しく感動的で、暫らくは幻想の世界を漂う感じがした。

12月26日は、息子一家と街の見物に出かけた。湖が多く、林と芝生に囲まれた市街地は絵葉書のように美しい。富裕層の人達が多く住む郊外の景観や大邸宅を見るにつけ、この国に住む人達にとって家は、重要な status-symbol である事を実感させた。夜、息子一家と共にこの街で最も古く歴史と伝統・格式を誇る“Kincaid”と言う有名なレストランで食事をした。勿論予約なしでは入れない所で、1週間前に申し込んでやっと予約が取れたという。客の多くは evening-dress やそれに相応しい盛装をした人々で満席の盛況で、もう年内は予約で一杯で入れないという。お金や外見だけではどう



にもならない圧倒されるような雰囲気漂い、息子の案内がなければ、私共夫婦だけでは気後れがして到底入れない場所であった。天井はあくまで高く、美しいシャンデリアが輝き、椅子やテーブルも立派で格調高く、さながら映画の一場面を見るような豪華さで、此処に私たちがいるのが不思議に思われた。prime ribs という特上のステーキを食べた。この世にこんなに美味しい牛肉があったのかと思うほど美味しく、つつい出された肉を全て平らげた。

夢の間に1週間が過ぎた。12月27日帰国の途に着いた。行く度に、空港での身体 check・荷物の検査は厳しくなっている。娘一家、息子一家と過ごしたこの数日を思い返すうちに12時間30分が経ち、成田に到着し、病院に携帯電話し、日本での現実に帰り、忙しい日々が始まった。



# いその苑(デイ・ケア)のご案内



## いその苑ってどんなところ？

健康状態を確認させて頂きながら、他のお年寄りの方と共に楽しく過ごしていただく中で、体や心のリハビリを行い、現在よりも毎日が充実できるようにお手伝い致します。

また、食事の提供や送迎、パワーリハビリテーション、入浴サービスも行なっています。



## どういったスタッフがいるの？

医師、看護師、作業療法士、相談員(精神保健福祉士)などのスタッフがおり、ご利用者が楽しく過ごせるようにお手伝い致します。

## ご利用対象となる方って？

生活に張りがなくなったり、生活リズムが乱れたり、物忘れなどが気になったり、閉じこもりがちの方が対象になります。お気軽にご相談ください。

## デイ・ケアの費用って？

- 医療保険が適用されます。
  - ※ 自立支援医療費制度の利用ができます。
- おやつ代として1日 50円かかります。(1ヶ月毎に請求いたします。)
- プログラム内容によっては、実費を負担していただく場合もあります。

## デイ・ケアのご利用日って？

- 毎週月曜日～土曜日(9時30分～15時30分)  
(基本的に日曜・祝日はお休みになります。)
- ※ 6時間以上のご利用をお願いいたします。
- ※ 3時間ご利用できるショートケアもあります。ご相談ください。

## デイ・ケアでの過ごし方は？

その方にあったプログラムを実施しています。また、みんな運動をしたり、ゲームをしたり、お茶を飲んで話をしたりします。

ご利用のご相談は、いその苑スタッフ又は相談員まで、お気軽にお尋ねください。

お問い合わせ先 電話 0993 - 72 - 0055

ウエルフェア九州病院 デイ・ケアいその苑 (市藺喜久代)







What is ほうしゃせん? ⑦

診療放射線技師 前床寿隆

PET (ペット)

PETとは、ポジトロン・エミッション・トモグラフィー(陽電子放出断層撮影法)のことで、心臓や脳などの働きを断層画像としてとらえる検査法です。この検査では、ポジトロン(陽電子)を放出する製剤を、注射や吸入により体内にとりこみ、製剤が体の中を移動して心臓や脳などからだのいろいろなところに集まる様子を、からだの外から「PET 装置」で撮影します。検査の目的に合わせて製剤を選ぶことにより、脳や心臓、がんなどの診断ができるのです。

PETは、1回の検査で全身を見ることができるということで、がんの診断で役立っています。現在全国でおよそ150施設(鹿児島2施設)に設置されています。がんの診断では、放射性フッ素(F-18)で標識したFDG(フルオロデオキシグルコース)という、ブドウ糖によく似た放射性の製剤を注射して検査します。がん細胞はブドウ糖を取り込んで増殖していきます。しかも、がんの悪性度が高いほどブドウ糖の取り込み量も多くなります。したがって、身体の中で他の組織よりもブドウ糖をより多く取り込んでいる場所をみつけることができれば、そこにがんが発生していると見当をつけることができます。

ただ、PETにも弱点があります。身体に入った放射性の薬剤は、腎臓・膀胱・脳・肝臓に集まりやすく、これらの臓器のがんの発見はあまり得意ではありません。このほか、炎症を起こしている部位にも集まりやすく、さらにがんの中にはブドウ糖を取り込まないものもあるため、CT、MRI、超音波などのほかの検査をあわせて行なうことが必要です。最近では、PETとCTを合体したPET-CTで、大きさ・形・部位を正確に診断できるようになってきています。



お知らせ

工事のお知らせ

現在病院敷地内で工事を行っております。大変ご迷惑をおかけしますがご了承ください。  
なお、工事現場には安全の為、立ち入らないようお願い致します。

精神科救急 1/28(日) 2/25(日)  
内科当番 2/18(日) 4/29(日)



うえるふえあ(welfare)は  
健康・幸福・福祉・繁栄を意味します

発行人 鮫島秀弥  
〒898-0089  
鹿児島県枕崎市白沢北町191  
TEL (0993) 72-0055 FAX72-1199  
URL <http://www.welfare-kyusyu.or.jp/>  
e-mail [jiseikai@welfare-kyusyu.or.jp](mailto:jiseikai@welfare-kyusyu.or.jp)



編集後記 新年早々、菜の花マラソンに挑戦しました。42.195kmの長い長い道のりは「自分との戦い」とよく言われていますが、一緒に走る仲間  
の存在や応援してくれる沿道の方の存在なしにゴールはあり得ないのだと強く実感しました。今年も皆様のお力を借りながらよりよい広報誌作りを目指して頑張ります。(とら)